平成30年度　博物館施設　総合評価

施設名　　自然の博物館

		達成	未達
全館共通	数値目標による評価	4	0
各館独自	数値目標による評価	6	2

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	90	0	0
各館独自	チェックリストによる評価	26	0	0

自己評価総括

評価	1　数値目標 ⑴　全館共通項目　・・・　すべての項目で目標値を達成した。 展示改修による常設展の充実や魅力ある特別展・企画展の実施に加え、職員がデザインしたグッズの作成・販売、博物館クイズ景品のオリジナルカード更新など来館者が楽しく学べる様々な工夫を行うことで来館者の満足度が高まるとともに、小学生に向けた効果的な情報発信の効果もあり入館者数が増加したことが要因と思われる。特に入館者数は22年ぶりに10万人を超えた。 ⑵　各館独自項目　・・・　達成が6項目、未達が2項目 学習支援の「出前授業及び観察指導」は、出前授業のうち小学生の「水や川に関する学習」を役割分担の見直しにより川の博物館に任せたことなどが未達の要因。今後は、標本や資料を活用した普段の授業とは異なる体験型の授業を積極的に打ち出していく。 2　チェックリストによる評価 ⑴　全館共通項目 ・・・ すべてがA評価 ⑵　館別独自項目 ・・・ すべてがA評価
課題	1　多くの項目が入館者数に連動するものであり、引き続き入館者数の維持・確保に努める必要がある。 2　学校や社会教育施設等を対象に自然に関する学習や体験学習に努めるとともに、共催展を通じた市町村支援に応える必要がある。
対応の方向	1　1月に新設した「埼玉の多様な生きものコーナー」、2月に更新（多言語化）した音声ガイドや3月月に刊行した常設展解説書など当館の新たな魅力を積極的に情報発信していく。 また、わかりやすく楽しく学べる博物館の視点から来館者に楽しんでいただける様々な工夫をしいく。 2　繁忙期や要望が集中する時期には日程調整を行うなど職員の負担にも配慮して対応していく。

評価結果に対するコメント

1．全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見	【委員からの御意見 ⇒当館の対応等】 1　多くの項目で達成又は評価Aを得ていて、特に入場者数が増加し10万人を超えたことは大変喜ばしいことと思う。常設展の改修、特別展・企画展など博物館の顔になる部分での努力がよい結果に結びついたと考える。 2　前年度に引き続き展示スペースの新設・改善が進められ、音声ガイドの多言語化や常設展解説書の刊行など着実に参観者へのサービスが改善され、博物館としての魅力が高まった。入館者の大幅な増加にこれらの着実な努力が反映していると考える。引き続きこのような展示の工夫と館外への情報発信 の努力が継続されることを期待する。 ⇒ 引き続きわかりやすく楽しく学べる博物館の視点から、常設展示の充実、埼玉の自然に関する資料収集や調査研究等を活かした魅力ある特別展・企画展の開催、効果的な情報発信に努めたい。 3　今後、益々人口は減少、予算減ということは目に見えている。こうした中で博物館のあり方を見直すことを考えて評価の内容なり基準を設定する必要があるように思われる。 ⇒ 県立博物館共通の課題でもあり連携して取り組みたい。 4　リピーターの方は長期の安定した運営に特に大事なので、アンケートや個人的な意見も積極的に伺い利用者の希望の変化、時代の変化、いろいろな変化にも出遅れることなく量より質の高い博物館を今のように維持していただきたい。 ⇒ アンケート内容や社会のトレンドを踏まえて質の高い博物館運営に取り組みたい。 5　資料の収集・整理は数だけの評価のようであるが、自然物が主体の資料であるから、1個の貴重度は物によって著しく異なる。これらは目標値にないが、価値の高いものを入手できた場合達成値に何らかの工夫が必要かと思う。 ⇒ 数値目標にはなじまないので今後「チェックリストによる評価」の中で工夫したい。

2．全館共通項目に係る評価

評価小委員の意見	1　職員デザイングッズの作成、博物館クイズ景品カードなど、来館者の満足度をあげる努力が評価される。 2　県立川の博物館との連携事業の充実が小中学生への来館呼びかけに有効ではないかと感じられる。 3　全館共通項目に係る評価、すなわち「数値目標による評価」・「全館共通項目チェックリスト」を通覧すると、全ての項目で目標を達成しており、博物館としての使命を十全に果たしているといえる。 4　全館共通項目「数値目標による評価」のうち、「利用者数」「常設展観覧者」の目標参考値・目標値は前年度実績を踏まえて設定され、右肩上がりの数値設定になっている。この点は、本館に限ったことではないが、営利を至上の目的とはしていない博物館が（常に）右肩上がりの目標を設定する必要があるか、数値目標以外の質的な評価の比重を何らかのかたちで高める仕組みや論理について考える時期に来ているのではないか。 5　全館共通評価項目すべてがA評価を達成しており、公立博物館としての役割を十分に果たしていることが伺われる。特に、入館者数は22年ぶりに10万人を超えており、当館の運営上の努力を見て取ることができる。 6　他にも、オリジナルグッズの製作・販売など、工夫を凝らした精力的な運営努力を様々に重ねており、こうした取り組み自体が、学校や社会教育との連携という、課題として指摘された点に取り組む際に後押しとなると考えられる。例えば、有志ボランティアの学生や市民を募り、オリジナルグッズを製作、販売するなどして、更なる入館者を獲得する方法が考えられる。